

プレスリリース

報道関係各位

2019年3月29日

公共交通オープンデータ協議会

「第2回東京公共交通オープンデータチャレンジ」入賞作品決定

首都圏の公共交通事業者やICT事業者が参画する、公共交通オープンデータ協議会（会長：坂村 健 INIAD 東洋大学情報連携学部 学部長）では、「第2回東京公共交通オープンデータチャレンジ」の表彰式を、2019年3月29日（金）に東洋大学赤羽台キャンパス INIAD ホールにおいて開催し、入賞作品を発表しました。このコンテストは、本協議会に参画する交通事業者が、それぞれの保有するデータを一般の開発者に対して公開し、様々なアプリケーションやアイデアを募集したものです。第2回となる今回のコンテストでは、共催として参加していただいた国土交通省から、主要駅構内図のデータも公開されました。

海外からの参加申込も含めて約500件近いユーザ登録と、約60件の応募の中から最優秀賞に選ばれたのは、一般社団法人日本支援技術協会による「わたしのバス」です。今回のコンテストでは、障害のある方の公共交通の利用を支援することを目的とする作品が多数寄せられました。そのなかでも、この「わたしのバス」は、視覚障害者の方のために、音声のみで自分の乗りたいバスの時刻表や、現在のリアルタイムなバスの位置を確認できるという作品です。障害者の方の社会参画を実現するという目的と、設定まで音声インタフェースで完結しているという技術的な高い完成度を評価し、最優秀賞に選ばせていただきました。

第2回となる本コンテストは、公共交通オープンデータ協議会の主催、INIAD cHUB（東洋大学情報連携学 学術実業連携機構）、東京大学大学院情報学環ユビキタス情報社会基盤研究センター、国土交通省の共催により、2018年7月17日（火）から2019年1月15日（火）にかけて作品を応募していただきました。東京地下鉄株式会社、東京都交通局、東日本旅客鉄道株式会社の特別協力をはじめ、26社局の鉄道、バス、航空関係の各交通事業者の協力を得て実施された、日本ではかつてない規模の公共交通分野のオープンデータコンテストとなりました。路線情報、時刻表情報などの静的データのほか、電車やバスのリアルタイムな位置情報と運行情報、航空機の発着情報などの動的データも公開され、日本だけでなく海外からも多数の参加がありました。

今回表彰を行う第2回コンテストに続き、2019年1月16日からは「第3回東京公共交通オープンデータチャレンジ」を継続実施中です。公共交通オープンデータ協議会では、2020年に向け東京の公共交通データのオープン化に向けた活動をさらに加速して参ります。

審査員長の坂村 健は以下のように講評を述べています。

公共交通データをオープン化すると、何が生み出されるのか—世界中の開発者が公共交通オープンデータを使いアイデアを形にしていくという意味では、その答えは無限にあると言えます。しかし、その中で特に期待されていることのひとつが、移動に困難を抱えた方のための最適化されたサービスが、いろいろと生み出されることです。

今回のコンテストでは、障害のある方の公共交通の利用を助けることを目的とした優れた作品が多数寄せられました。中でも「わたしのバス」は、視覚障害者の方のために、音声のみで自分の乗りたいバスの時刻表や、現在のリアルタイムなバスの位置を確認することができるというものです。障害者の方の社会参画を実現するという目的と、設定まで音声インタフェースで完結しているという技術的な高い完成度を評価し、最優秀賞に選びました。

優秀賞には、公共交通オープンデータを活用し、素晴らしいアイデアを形にした次の4作品を選びました。「dela-sh.info」は、現在の鉄道路線の遅延状況を一目で確認できるWebサイトです。単純ではありますが、意外といままでに似たものがなく、分かりやすさを追求した作品に仕上げたことを評価しました。「Tokyo Station 3D Viewer」は、今回国土交通省が新たに公開した東京駅の構内図データを活用し、東京駅やその周辺の地下街を3次元で閲覧できるWebサイトです。非常に緻密に作りこんでありデザインもよく、審査会で高い評価を受けました。

「Tokyo Train Alert」は、外国人の方が複雑な東京の電車を乗りこなせるように降車駅をアラートしてくれるものです。2020年に向けたチャレンジに、外国の方からこのような作品が寄せられるのは意義深いことだと思います。「Worker Step」は、一般的な経路検索とは違い、リアルタイムな遅延情報も考慮した経路検索です。ナビゲーションでのリアルタイムデータの活用は今後さらに進むことが期待されており、非常に意欲的な作品だと思います。

また審査員特別賞には、「トーキョーラインズ Ver.2.0」「relocate.tokyo」「とれノッチ」「TransitHQ -Tokyo Subway Directions API」が、それぞれ選ばれました。

第2回の東京公共交通オープンデータチャレンジは、第1回以上に完成度の高い作品が寄せられていると感じました。これらのアイデアの中から、2020年の東京のスムーズな移動を応援するサービスが生まれることを期待しています。

[問い合わせ先]

公共交通オープンデータ協議会事務局（YRP ユビキタス・ネットワークング研究所内）

担当：柏、山田 電話：03-5437-2270、E-mail：odpt-office@ubin.jp

以上

【参考資料 1】

<入賞作品>

賞	作品名	応募者名（敬称略）
最優秀賞	わたしのバス	一般社団法人日本支援技術協会
優秀賞	Tokyo Train Alert	Little Bird Solutions
	Tokyo Station 3D Viewer	株式会社 SKcompany
	dela-sh.info	綿貫 圭太
	Work Step	羽田野 湧太・村松 波・玉井 亮央
審査員特別賞	トーキョーラインズ Ver.2.0	池間 健仁
	relocate.tokyo	Fabio Crisci
	とれノッチ	阿部 賢太郎
	TransitHQ – Tokyo Subway Directions API	Jason Cheung
東日本旅客鉄道特別賞	デジシルベ	Terachan
	まよワン!じっこくん	SAP ジャパン サービス部門 デザインシンキング研究会
	パーソナル発車標アプリ NowStation	株式会社 新陽社
東京地下鉄特別賞	Amaze the maze at Shinjuku	石室屋 正人・岩月 憲一・三宅 雅矩
	Help Me @Shinjuku Station	QOLP デザイナーズ
	deru	河野 大紀
東京都交通局特別賞	Fe 探くん	亀田 遼希
	Train / Bus Navi	大野 伸一
	バス乗車支援システム「LACOOL」	園部 聡士・佐々木 太一
INIAD 特別賞	iStation	同志社大学 宮崎ゼミ C 班
	TOKYO 日程	史 経煜・張 博成・高 俊軒
	車いすの方向け乗り換えアプリ	豊田 信太郎
	Best Flight Shot	同志社大学 宮崎ゼミ E 班

わたしのバス



視覚障害者も乗りたいバスの状況が簡単にわかる スマートソリューション

ねえ、クローバ わたしのバスを 起動して

ようこそ、わたし のバスへ 何をしますか

スマートスピーカー

スマートスピーカーやヘッドセットで 乗りたいバスがどこまで来ているかや時刻 表を音声のやりとりで確認

ヘッドセット
タップするだけで連動している スマートスピーカーサービスを起動 周囲の音も聞こえる音導管設計で 視覚障害者も街でも安心

LINE Bot版

BOTと会話することで わかりやすく簡単にバスの状況を確認



図 1：最優秀賞「わたしのバス」(応募者：一般社団法人日本支援技術協会)

【参考資料 3】

<開催概要>

[主催]

公共交通オープンデータ協議会

[共催]

INIAD cHUB（東洋大学情報連携学 学術実業連携機構）、
東京大学大学院情報学環ユビキタス情報社会基盤研究センター、
国土交通省

[特別協力]

東京地下鉄株式会社、東京都交通局、東日本旅客鉄道株式会社、
YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所

[協力]

小田急電鉄株式会社、小田急バス株式会社、関東バス株式会社、京王電鉄株式会社、
京王電鉄バス株式会社、京成電鉄株式会社、京浜急行電鉄株式会社、国際興業株式会社、
ジェイアールバス関東株式会社、西武鉄道株式会社、西武バス株式会社、全日本空輸株式会社、
東急バス株式会社、東京急行電鉄株式会社、東京国際空港ターミナル株式会社、
東京臨海高速鉄道株式会社、東武鉄道株式会社、東武バス株式会社、成田国際空港株式会社、
西東京バス株式会社、日本空港ビルデング株式会社、日本航空株式会社、株式会社ゆりかもめ

[オープンデータ・パートナー]

一般社団法人オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構、国土地理院、気象庁、文化庁、
気象ビジネス推進コンソーシアム、公益社団法人 全国公立文化施設協会、G 空間情報センター、
公益社団法人 土木学会

[後援]

IT 総合戦略本部、総務省、東京都

[スケジュール]

コンテスト実施期間：2018年7月17日（火）-2019年3月31日（日）

応募期間：2018年7月17日（火）-2019年1月15日（火）

結果発表・表彰式：2019年3月29日（金）15:00-17:00 東洋大学赤羽台キャンパス INIAD ホール

[募集内容]

公共交通オープンデータやその他のオープンデータを融合的に活用した、新しいアプリケーションやアイデアを募集しました。スマートフォンアプリ、Web サービス、IoT ガジェット等を想定しますが、それに限りません。実際に稼働するアプリケーションに限らず、プロトタイプやビジネスプランの応募であっても構いません。

以下のいずれかのデータを利用することを必須としますが、連携オープンデータや他のデータを組み合わせた作品も歓迎しました。

- ・本チャレンジで公開される、列車、バス、航空機の時刻表やロケーション情報などの公共交通データ
- ・チャレンジで公開される駅構内図や施設情報

[審査会]

(審査員長)

坂村 健：公共交通オープンデータ協議会 会長、INIAD（東洋大学情報連携学部）学部長

(審査員)

大野 秀敏：国土交通省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官

久原 京子：東京都 理事（ICT 戦略担当）

[コンテスト Web サイト URL]

<https://tokyochallenge.odpt.org>

【補足資料】

[公共交通オープンデータ協議会]

公共交通オープンデータ協議会は、公共交通事業者および ICT 事業者から構成される、産官学連携の協議会です。鉄道、バス、航空の分野において、公共交通関連データのオープン化に向けて活動を行っています。鉄道、バス、航空などさまざまな交通機関のデータをワンストップで提供する「公共交通オープンデータセンター」の構築を目指しています。

<http://www.odpt.org>